

お気軽にお立ち寄りください

アオーレ西棟3Fでお待ちしております

ながおか市民協働センターでは企画実現のほか、市民団体やNPO法人の立ち上げに関するサポートや情報発信、活動を継続運営する際のお悩みにもお応えします。

【開館時間】午前8時～午後10時
【コーディネーター相談受付時間】午前9時～午後6時(月～金)
【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)
※土日祝日または時間外のご相談については事前にご予約ください。

お気軽にご相談ください

事業や企画全般についての相談、市民協働に関する講師・講演、地域住民や組織内の意見集約、ワークショップやファシリテーションなどについてお応えします。

相談窓口

当センターにはコーディネーターが常駐し、市民活動に関するご相談に随時お応えしています。窓口・電話・メールなどお気軽にお問い合わせください。



出前相談

(NPO・市民活動団体のための無料専門家派遣サービス)

活動団体の組織運営能力アップを目指して税務相談や労務相談、法人設立相談など団体のニーズに合わせた講師を無料で派遣します。



こんな相談が寄せられています

相談件数

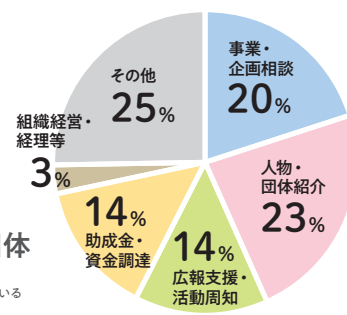
859件

※集計期間／2019年1月1日～12月31日

総登録団体数

369団体

※2020年1月31日現在
※当センターに登録されている団体の数です



組織運営講座

市民活動を始めたい方や興味のある方を対象に、市民活動の基礎知識を学べる講座を開催します。

参加者
71名

【今年度のテーマ】
●企画づくりの基礎
●資金調達の基礎
●イベント広報のコツ
●共感を呼ぶ活動PR
●会計の基礎



地域づくり講演会

毎年、一般市民の方を対象にした講演会を開催しています。市民主体の地域づくり活動・社会課題解決活動について、毎回趣向を凝らした内容での講演会を企画しています。

参加者
51名

【今年度の実績】
期日:2019年7月21日
表題:「ふまじめさ」が地域を変える
講師:小松理度(こまつりけん)氏
(ローカルアクティビスト、ライター)



イベント「市民活動フェスタ」

参加者全員で作成し、市民の皆さんに市民活動の楽しさを伝えるイベントです。

来場者数
約5,000名
参加団体
71団体



【今年度の実績】
期日:2019年9月7日
会場:アオーレ長岡全館

情報誌「らこって」

ながおか市民協働センターが毎月発行する無料情報誌。地域で活躍する人へのインタビューのほか、ピックアップ団体の活動紹介、市民活動に関する情報発信などを行います。



紹介人物
25名
紹介団体
106団体

掲載実績
(2019年1月～12月)

ラジオ番組「つながるラジオ」

ラジオ局FMながおかに放送している番組(毎週月曜17時～)。地域の宝をはさみこめ!つながるサンド「つなサンド」をテーマに、市民団体やサークルを紹介します。



紹介団体
46団体

放送実績
(2019年1月～12月)

新年度事業の 事前相談受付中!

長岡市市民活動推進事業補助金

2020年4月～2021年3月に実施する事業への補助金申請に関する事前相談を受付中です。市民活動企画をご検討の方は、お早めにご相談ください!

※新年度の補助事業は、長岡市の令和2年度予算の成立が前提となります。

※補助事業の内容が今年度から変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

今年度の補助制度はこちら(参考)



配布場所

長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



@NkyodoCenter



@nagaoka_kyodo



@mytown0258

知る、つながる、好きになる ながおか市民活動情報誌



Racotte
vol.87

発行 ● ながおか市民協働センター

2020
3
FREE

会員や協力者を
増やしたい

多様性社会を
めざす!

長岡を
盛り上げたい!

社会課題の
認知度を広げたい

みんなが
主役のまちに!

長岡市市民活動 推進事業補助金

うまく使って活動をはじめよう!
広げよう!

ノウハウや
ツールを得て
活動範囲を
広げたい

想いをカタチに

子ども
たちに夢を

活動フィールドを
整備したい

若者が
楽しめるまちに!

誰もがイキイキ!

自己資金で活動できるまで
応援してほしい

生涯現役!

人生100年、
元気に地域貢献!



2020.3.1
<vol.87>

FREE

【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザ アオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax. 0258-39-2900
Mail. kyodo-c@ao-re.jp URL. https://nkyod.org



長岡市市民活動推進事業補助金活用実例集

うまく使って活動をはじめよう! 広げよう!

長岡市市民活動推進事業補助金は分野や規模・場所を問わず、市民のみなさんの熱意・アイデアを活かした地域社会や市民のために行う公益的な活動の経費を補助することができます。今回は5つの活用ケースをご紹介します!



1 会員や協力者を増やしたい



特定非営利活動法人 ながおかたすけあいネットBEライフ

目的

介護保険・障がい福祉・たすけあい活動を行う福祉系NPO法人です。サービス利用者の拡大と、現場で働いてくれる人材の確保を課題としていました。特に、保険適用外で行う「たすけあい活動」は赤ちゃんからお年寄りまで困っている人のお手伝いをするNPO法人ならではの利用者に寄り添ったサービスです。そのサービスの利用促進と、支えてくれる仲間探しに補助金を活用して取り組みました。

取り組み

- これから介護事業に携わりたいと思っている方を対象とした「介護ボランティアの活動とたすけあい活動」講座を開催
- 保険適用外の地域たすけあい活動についての案内リーフレット作成

結果

講座をきっかけに新たなスタッフや興味を持ってくれるボランティアが増えました。また介護保険サービスを受けることが出来ない人に、法人独自の「たすけあい活動」を知ってもらうツールが出来たことで、当法人の利用者拡大につながりました。

2 社会課題の認知度を広げたい



ひだまりハウス ～精神遅滞及び自閉症児を支える家族会～

目的

子どもの精神発達遅滞や自閉症は、基準が明確ではなく、近年では『グレーゾーン』と言われる子どもたちも多くいます。しかし、子育て世代に幅広く発達遅滞などについての正しい知識はあまり広まっているとは言えません。そのため、グレーゾーンの子どもを持つ親は正確な情報に触れられず孤立しがち。そこで、子どもの発達について、色々な親に知ってもらいたいと思い補助金を活用しました。

取り組み

- 広く一般に精神発達遅滞や自閉症を知ってもらうため、「子どもの個性に向き合う座談会」を開催
- 団体パンフレット作成

結果

小学校等への告知に力を入れたことや託児所を設けたことで、たくさんの方に参加してもらうことができました。イベント終了後には会員も増加。通常活動の茶話会への参加者も増え、「ひだまりハウス」の認知度も広がり、問い合わせも増えています。

3 ノウハウやツールを得て活動範囲を広げたい



ウィメンズヘルスlab

目的

乳がん・子宮がん検診の受診率の低さは、全国的な課題です。長岡市でも同様で、市が啓発イベントを開催しても参加者が少ないのが気になっていました。そこで、助産師の有志が集まり、自分の健康を守ることの大切さを伝えようと団体を設立。どうすれば一般の人にも乳がん・子宮がんといった問題に関心を持ってもらえるか、助産師ならではの切り口で発信してみようと考えました。

取り組み

- 乳がん、子宮がんの基礎知識や自己検診方法が学べる講座の開催
- 今後活動を展開できるよう乳がん模型の購入

結果

乳がん模型を購入したことで、参加者にインパクトのある体験をしてもらえました。模型に触ることで、乳がん・子宮がんへの知識や、自己検診のやり方などへの理解も深まったと思います。今後も購入した乳がん模型を活用し、活動範囲を広げていきたいです。

5 自己資金で活動できるまで応援してほしい



4 活動フィールドを整備したい



マウンテントレイラーズワシマ

目的

和島地域の人口減少という現状を前に地域おこしの必要性を感じていました。そんな時、里山の古道をマウンテンバイク用に整備できるのではないかと考えました。まずは、市内外からマウンテンバイク愛好者を集めた走行体験会の開催を目指して整備をスタート。ゆくゆくは里山を活用したアクティビティの開発につなげられればと、最初の活動環境の整備に補助金を活用しました。

取り組み

- 古道の再生活動（藪払い、倒木処理、下草刈り）
- トレイル走行体験会の開催

結果

整備をはじめたことで、地域内から多くの人が応援や関心を寄せてくれています。今後は複数コースを通せるよう整備を続けます。将来的にはマウンテンバイクで、道の駅などの観光スポットなど和島地域内を回遊できるようになればいいなと思っています。

てらどまり若者会議 ～波音～

目的

「海は危険だから」と、海から距離を置き、釣りの経験や、生きた魚に触ったことがない子どもが増えています。そこで、寺泊の海を活かして、親子で釣り船に乗り、釣る・捌く・食べるをまるごと体験できるイベントを企画。参加費で運営できる持続可能な企画にしたいのですが、初めての企画なので宣伝や備品の用意など初期投資が必要です。その部分に補助金を使いたいと考えました。

取り組み

- 親子で船釣りと魚を捌き、食す、食育を目指した体験イベントの開催

結果

自立前提で参加費を5,000円にしたのですが、90組もの応募が! 普段魚を触りたがらない子どもも、自分が釣った魚には興味をもっていました。また、地域の漁師や漁協との連携を図りつつ、補助金で立ち上げリスクを抑えたスタートが切れたと思います。

申請前の よくある質問を ピックアップ!

Q 申請書や報告書って書くのが難しそうだけど…誰でも書けますか?

協働センターでは提出前の申請書の添削や企画書のブラッシュアップなどのご相談に応じていますので、お気軽にご相談ください。また同様に報告書の添削も承っています。文字に起こすことややりたいことの整理にもつながるので、申請するしないに関わらず、一度書いてみるのもオススメです。

Q 毎年補助金申請は可能なの?

自己資金で完全に賄えるようになるまで何度か申請する団体もあります。しかし、恒常的な活動への資金補填や、前年度に申請した企画とまったく同じ内容では申請は難しいです。申請する前に、活動を軌道に乗せていくためのステップアップした企画となっているかご検討ください。

Q 補助金を活用して備品を購入することはできますか?

どんな物でも購入可能ではございませんが、その備品により活動の発展が見込めるようであれば認められる場合があります。実際にケース3では、乳がん模型を購入することで、今後いろんな場面で活動していけるということで認められました。

Q 備品購入後の取り扱いで注意することはありますか?

長岡市補助金等交付規則第19条(財産の処分の制限)では、補助金等により取得した財産は、市長の承認を受けないで補助金等の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、又は担保に供してはならないことになっています。購入後も備品の取り扱いに注意しましょう。

